

しょうがくせい みな  
小学生の皆さんへ

まいにち げんき す  
毎日、元気に過ごさせていますか。きょう はな  
今日、お話ししたいのは、どくしょ  
読書についてです。しぎょう なか  
始業のあいさつの中で、

で  
「出かけることがせいげん  
制限されるようなとき、ほん みな  
本は皆さんをいろいろなところへ連れて行ってくれます。」

はな  
とお話しました。あれから、なに  
何かすてきな本であ ひと  
出会った人はいるでしょうか。

みな  
皆さんにご紹介したい言葉があります。それは、じょうこうごう み ち こ  
上皇后美智子さまがこうごう  
皇后でいらしたとき、はし  
橋をか

ける こどもじだい どくしょ おも だ  
けー子供時代の読書の思い出ーという題でなされたお話の一部です。「それ(読書)はある時

にはわたし ね  
私に根っこをあた とき つばさ  
与え、ある時には翼をくれました。この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、

じぶん せかい すこ ひろ そだ おお たす  
自分の世界を少しずつ広げて育てていくときに、大きな助けとなってくれました。どくしょ わたし かな  
読書は私に、悲しみ

やよろこ  
喜びにつき、おも めぐ きかい あた  
思い巡らす機会を与えてくれました。」

このようなたいへん とき  
大変な時、まず、わたし ひつよう  
私たちに必要なのは、つぎつぎに知らされるし  
ニュースをみんなこわ  
怖がるの

ではなく、ただ  
正しいものにだけちゅうい  
注意してしっかりと立つことのできる根っこでしょう。そして、いえ なか  
家の中でほ

とんどいちにちじゅう す  
とんど一日中過ごすことになってつまらなくなっていくころ、もっとひろ せかい み  
もっと広い世界を見たりみらい  
未来のことをかん

じたりして、どこへでもと  
飛んでいくためのつばさ  
翼です。さらに、せかいじゅう かたがた いた かな  
世界中の方々と痛みや悲しみを共に感じ

ながら、いっしょ がんば  
一緒に頑張っていこうとするやわ ころ  
柔らかい心なのではないでしょうか。

さき み  
先が見えないこのときに、どくしょ とお  
読書を通して、自分の外に、内に、はし  
橋をかけ、せかい ひろ  
世界を広げていってください。

このたいへん とき お  
大変な時が終わったとき、きっと、よりせいちょう じぶん はっけん  
成長した自分を発見できるとおも  
思います。

